

# ライフステージやがんの特性に応じたがん対策について(檜山委員資料)

：小児がん、思春期若年成人がんに関しては、ライフステージに応じた対策が不可欠

- ① 病名告知：年齢や理解度に応じた病名告知
- ② 妊孕性温存への対応
- ③ きょうだい、家族への配慮：環境整備や社会生活への対応
- ④ 治療中の教育への対策：原籍校への復学、高校以上の教育支援
- ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 長期フォローアップ、移行期医療対策：晩期合併症対策、就学・就労支援
- ⑨ 社会資源の活用と充実：医療費援助など

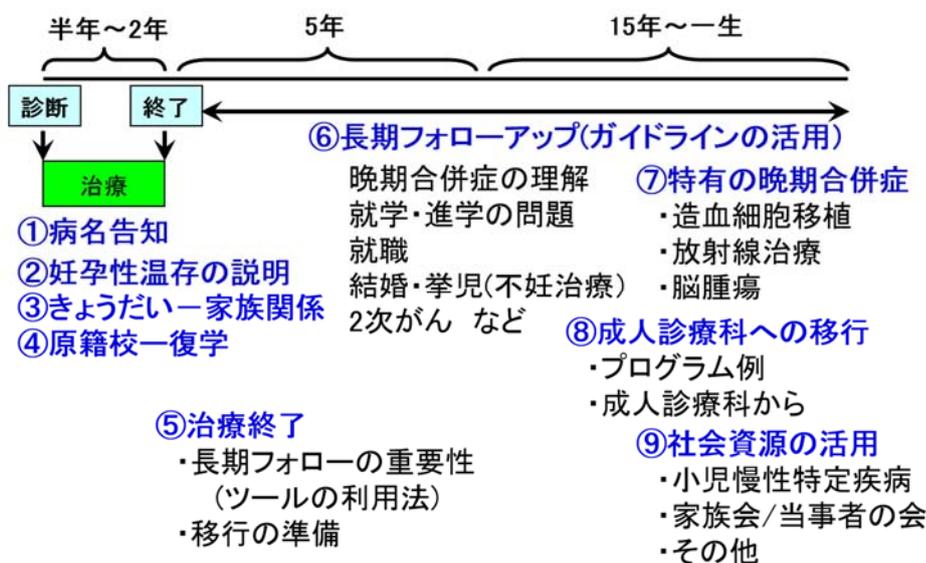


図1：小児、思春期若年成人がんの治療スケジュール。診断や治療時の年齢、その後の長期のフォローアップや移行期医療に関してそれぞれのライフステージで①から⑨までの対策が必要

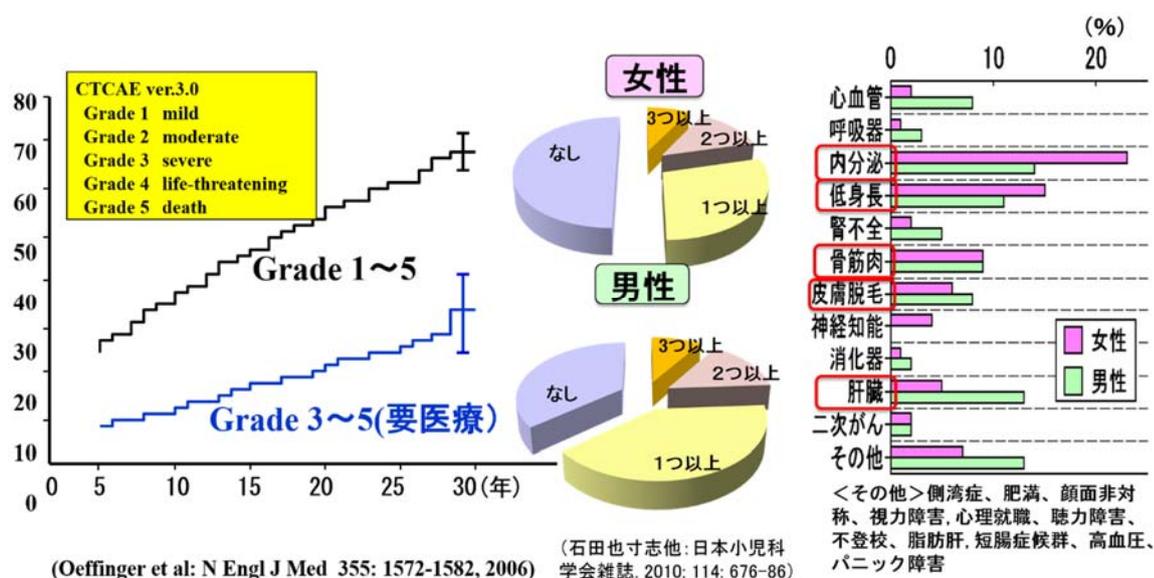


図2：晩期合併症の頻度：治療後の経過とともに頻度が増加し（左）、様々な障害が生じるが（右）症例によっては複数の合併症を有する例も少なくない（中央円グラフ）。